

## 基本ルール 証拠金と必要資金

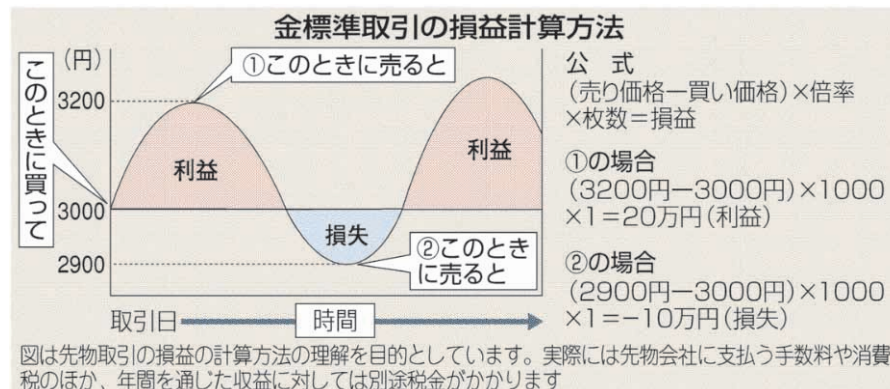
# 値差に着目 効率的な投資

21日の東京工業品取引所の金相場(先限=2010年2月限、終値)は、1 $\text{g}$  = 2816円。前回はカラ売りのシステムを説明しましたが、もし先週の取引開始時点(16日=2855円)で、金標準取引でカラ売りを仕掛けていれば、1枚当たり3万9000円(手数料別)の収益を獲得できていたことになります。今回はその計算方法と、取引をするためにはいくらのお下資金が必要かを考えてみましょう。

金相場の値上がりを予想した投資家が地金商の店頭で1 $\text{kg}$ のゴールドバーを購入したとします。商品先物市場でも同じですが、一般的に金価格は1 $\text{g}$ 単位の値段が表示されています。ある日の価格が1 $\text{g}$  = 3000円だとすれば、1 $\text{kg}$ の金塊を購入するためにはその1000倍で300万円の資金が必要です。

### 損失リスクにも注意

しかし先物取引なら同じ金1 $\text{kg}$ の投資に当初必要な資金は15万円(21日現在)で済みます。なぜか。それは前回説明した通り先物取引による投資が現物のやり取りを前提としていないからです(もちろん現物の調達や換金もできます)。商品先物取引の参加者が着目するのはあ



くまでも購入価格と売却価格の差(値差)です。100円で購入して110円で売却し10円の利益を手にすることが目的であれば現物商品を手元に置く合理性はありません。むしろ商品を持たない、渡さないことでコストが削減できるはずですよ。

そして現物を動かさないのであれば、当然のこと買い手が300万円を、売り手が1 $\text{kg}$ の金塊を用意する必要もありません。お互いに必要となるのは、相場が自分の不利に動いた場合(買い手にとっては下落、売り手にとっては上昇)に生じる損失を補償する担保金で良いはずですよ。この担保金を「取引証拠金」と呼びます。

取引証拠金は商品によって異なりま

すが通常の場合は総代金の5~10%の間。すなわち投資家はいったん現物を所有する投資に比べて、わずかなお下資金で同等の収益チャンスを手に入れることができるのです。つまり「先物取引は投資効率が良い」のですが、程度の差はあれ同じことはFX取引や株式の信用取引にもあてはまります。ただしその投資効率の良さは、同じ理由で損失を加速させる場合がありますから注意が必要です。

### 慎重派にはミニ取引も

東京工業品取引所の金標準取引は1 $\text{kg}$ (1000 $\text{g}$ )単位の取引です。これは表示の1 $\text{g}$ の値段が1円上下すれば、投資結果にはその1000倍のインパクトが生じ

## 新・商品先物入門

④

日本商品先物振興協会

小島 栄一

ることを意味しています。このインパクトを「倍率」と呼びます。

ここで『金標準取引の損益計算方法』をごらんください。1 $\text{g}$ 当たり3000円で金を購入して取引を始めた例です。

①は3200円に値上がったところで差金決済した「勝ち」パターン、②は2900円で差金決済した「負け」パターンです。

損益は、値差に倍率と取引量を乗じて求めます。取引量は、商品先物取引の世界では「枚」という単位で表します。金標準取引の1枚は1000 $\text{g}$ 、2枚なら当然2000 $\text{g}$ になります。

例は100円の値差で10万円、200円で20万円の損益が生じることを示していますが、その額が大きい小さいかは投資家の皆さんの判断です。ただ値差に対する投資結果が過大だと感じた方々には金ミニ取引をお勧めします。ミニは標準の10分の1に等しい100 $\text{g}$ 単位の取引。100円の値差は1万円、200円は2万円の投資結果に相当します。